

歴民だより

歴史民俗資料館

平成 31 年度 5 月号 No.67

町文化財の紹介

みのじ いちりづか 美濃路の一里塚 (東結入方)



慶長 9 年 (1604) 初代将軍徳川家康は江戸日本橋を起点として主要街道の一里ごとに塚を築きました。後に脇街道にも及ぼし、塚の大きさは 5 間四方 (9 m 四方) が基準で、塚上には榎や松などを植えて旅人に便利を与えました。

昔、町屋から先、入方に至る約 1300m の間は立派な松並木でありました。松は「いがみしゃくれ」といって、曲がりくねっていました。三つ又のところに「左大垣道」の道標が建っていて道の両側に一里塚がありました。

むすぶじょうし

結城址 (西結 中組)

高田二郎兵衛の館がここから西南 700m の地にあったと伝えられております。一説には、斉藤道三の家臣で、6 人衆と呼ばれた大将格で重臣日比野下野守清実が天文年中 (1532~55) 結城主として 3000 貫を領して住み、東結入方の津島神社の社殿や社領を寄進したりしましたが、永禄 4 年 (1561) 5 月、織田信長と森部の合戦し、大垣城主長井甲斐守衛安とともに討ち死にし、斉藤軍は敗走しました。このとき兵火で城や津島神社の社殿は焼かれてしまいました。

ハートピア安八

- 歴史民俗資料館 -

住 所：岐阜県安八郡安八町氷取 30

お問合せ：0584-63-1515